

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2028年3月7日まで（2016年12月7日設定）	
運用方針	次世代米国代表株マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。	
主要運用対象	ベビーファンド	次世代米国代表株マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	米国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

次世代米国代表株ファンド
（為替ヘッジあり）

愛称：メジャー・リーダー（ヘッジあり）

第22期（決算日：2022年6月7日）

第23期（決算日：2022年9月7日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「次世代米国代表株ファンド（為替ヘッジあり）」は、去る9月7日に第23期の決算を行いましたので、法令に基づいて第22期～第23期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

ファンドマネージャーのコメント

当作成期の運用で主眼を置いたポイントをご説明させていただきます。

（投資環境についての考え方）

当作成期間においては、2022年初来の大幅調整から、下値は限定的となると考えました。一方で、インフレ懸念とそれに伴う米連邦準備制度理事会（FRB）による金融政策正常化の前倒しや、ウクライナ情勢の緊迫化などのリスク要因も多く、方向感を探る展開とも想定しました。

このような環境下、コロナ後も成長が持続するかどうかを踏まえながら、中長期的に業績拡大余地の大きい優良成長株に投資を行いました。

（ポートフォリオの構築についての考え方）

当ファンドは、米国の株式を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得をめざし、今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれる投資銘柄を厳選し、約30銘柄に投資を行ってまいりました。主として米国の強みでもあるインターネット、医療システムの改革の重要性の高まりや、ミレニアル世代台頭に伴う小売分野の構造変化を踏まえた新しい企業の成長に注目しました。同時に、伝統的な老舗企業

でありながら、絶え間ない自己革新により環境変化に対応する企業にも目を配りました。当作成期首は、適宜銘柄の見直しを行った結果、当作成期首と当作成期末では、2銘柄が入れ替わりました。中央演算処理装置（CPU）市場において、市場シェアを獲得すると見込まれる半導体関連企業である「ADVANCED MICRO DEVICES」を新規買付、シェアを失うと見込まれる企業である「INTEL CORP」を売却しました。また、決算の動向などを踏まえ、バイオ医薬品メーカーである「AMGEN INC」を新規買付、ヘルスケア関連のソフトウェア企業である「VEEVA SYSTEMS INC-CLASS A」を売却しました。

また為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかりました。

このような運用を行いました結果、「TJX COMPANIES INC」や「UNITEDHEALTH GROUP INC」などの組入銘柄の値上がりが基準価額の上昇に寄与し、「INTUITIVE SURGICAL INC」などの組入銘柄の値下がりが基準価額の下落に影響したことから、基準価額は当作成期首に比べ11.4%の下落となりました。



株式運用部
ファンドマネージャー
飯田 太郎

西 直人

安井 陽一郎

秋元 政隆

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近10期の運用実績

決算期	基準価額			（参考指数） ダウ・ジョーンズ工業株価平均		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
	（分配落）	税 分 配	み 金 騰 落	中 率	（円ヘッジ、 円換算ベース）			
	円	円	%		%	%	%	百万円
14期(2020年6月8日)	9,625	0	3.9	13,237	4.6	95.2	—	1,925
15期(2020年9月7日)	10,000	367	7.7	13,700	3.5	83.4	—	1,879
16期(2020年12月7日)	10,000	1,150	11.5	14,695	7.3	94.5	—	1,653
17期(2021年3月8日)	10,000	396	4.0	15,303	4.1	92.6	—	1,744
18期(2021年6月7日)	10,000	845	8.5	16,903	10.5	92.4	—	1,755
19期(2021年9月7日)	10,000	461	4.6	17,183	1.7	90.4	—	1,932
20期(2021年12月7日)	9,957	0	△ 0.4	17,102	△ 0.5	93.7	—	1,964
21期(2022年3月7日)	9,267	0	△ 6.9	16,305	△ 4.7	97.3	—	1,820
22期(2022年6月7日)	8,589	0	△ 7.3	15,918	△ 2.4	99.9	—	1,672
23期(2022年9月7日)	8,215	0	△ 4.4	14,903	△ 6.4	99.5	—	1,596

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) ダウ・ジョーンズ工業株価平均（ダウ工業株30種）とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY（ニューヨーク）ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。ダウ・ジョーンズ工業株価平均（円ヘッジ、円換算ベース）は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均をもとに、委託会社が計算したものです。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基準 価 額		(参 考 指 数) ダウ・ジョーンズ工業株価平均 (円ヘッジ、 円換算ベース)		株 式 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
第22期	(期 首) 2022年3月7日	円 9,267	% —	16,305	% —	% 97.3	% —
	3月末	9,945	7.3	17,111	4.9	96.9	—
	4月末	8,976	△3.1	16,123	△1.1	97.2	—
	5月末	8,633	△6.8	16,066	△1.5	96.7	—
	(期 末) 2022年6月7日	8,589	△7.3	15,918	△2.4	99.9	—
第23期	(期 首) 2022年6月7日	8,589	—	15,918	—	99.9	—
	6月末	7,921	△7.8	14,926	△6.2	96.7	—
	7月末	8,479	△1.3	15,616	△1.9	96.0	—
	8月末	8,359	△2.7	15,223	△4.4	96.6	—
	(期 末) 2022年9月7日	8,215	△4.4	14,903	△6.4	99.5	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

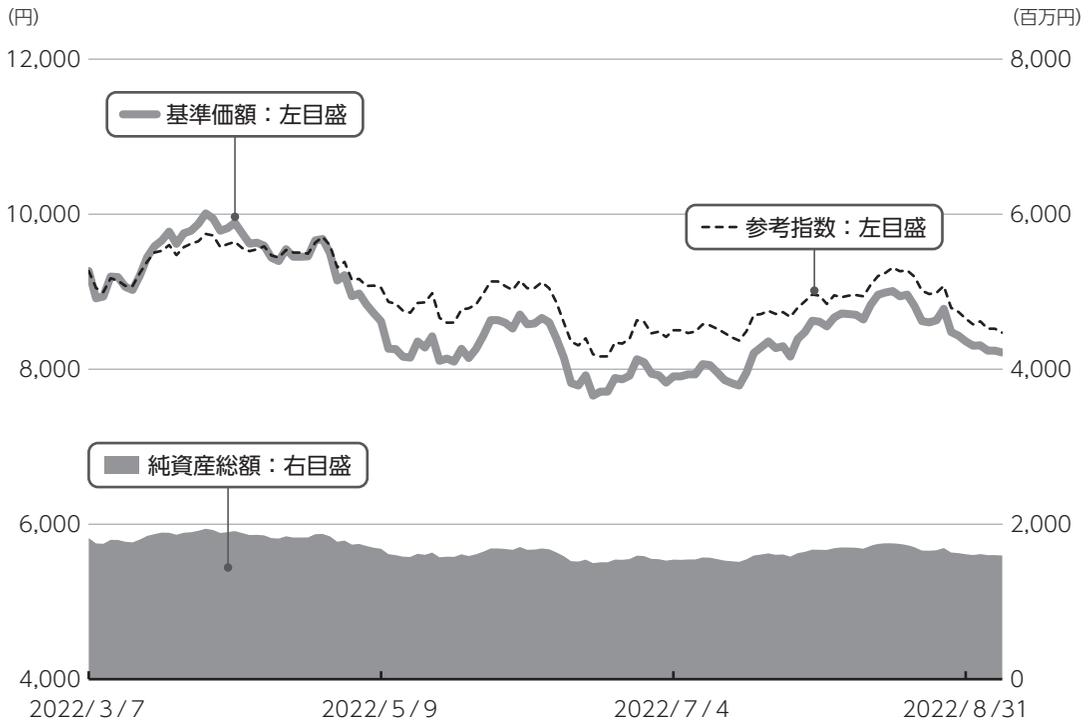
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第22期～第23期：2022年3月8日～2022年9月7日

▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第22期首	9,267円
第23期末	8,215円
既払分配金	0円
騰落率	-11.4%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ11.4%の下落となりました。

▶ 基準価額の変動要因

下落要因

「INTUITIVE SURGICAL INC」などの組入銘柄の値下がりが基準価額の下落要因となりました。

第22期～第23期：2022年3月8日～2022年9月7日

投資環境について

▶ 米国株式市況

米国株式市況は下落しました。

2022年5月米消費者物価指数（CPI）が予想以上に上昇したことなどを受け、政策金利の上げ幅が拡大され、急速な金融引き締めが景気後退を引き起こすので

はないかとの懸念などから下落しました。その後行き過ぎた景気悲観論が修正されたことなどをを受けて上昇しましたが、FRB高官の利上げ継続を示すタカ派発言を受けて、当作成期末にかけて下落しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 次世代米国代表株ファンド（為替ヘッジあり）

次世代米国代表株マザーファンド受益証券を通じて米国株式に投資を行うとともに、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかりました。

な老舗企業でありながら、絶え間ない自己革新により環境変化に対応する企業にも目を配りました。

当作成期間においては、2022年初来の大幅調整から、下値は限定的となると考えました。一方で、インフレ懸念とそれに伴うFRBによる金融政策正常化の前倒しや、ウクライナ情勢の緊迫化などのリスク要因も多く、方向感を探る展開とも想定しました。

▶ 次世代米国代表株マザーファンド

米国の株式を主要投資対象とし、値上がり益の獲得をめざして運用を行いました。銘柄選定にあたっては、今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれる投資銘柄を厳選し、約30銘柄に投資を行ってまいりました。

このような環境下、コロナ後も成長が持続するかどうかを踏まえながら、中長期的に業績拡大余地の大きい優良成長株に投資を行いました。

適宜銘柄の見直しを行った結果、当作成期首と当作成期末では、2銘柄が入れ替わりました。

主として米国の強みでもあるインターネット、医療システムの改革の重要性の高まりや、ミレニアル世代台頭に伴う小売分野の構造変化を踏まえた新しい企業の成長に注目しました。同時に、伝統的

また、企業ごとの業績動向を踏まえつつ、株価の動きに対応した個別銘柄の組入比率調整を適宜行いました。

CPU市場において、市場シェアを獲得すると見込まれる半導体関連企業である「ADVANCED MICRO DEVICES」を新規買付、シェアを失うと見込まれる企業である「INTEL CORP」を売却しました。また、決算の動向などを踏まえ、バイオ

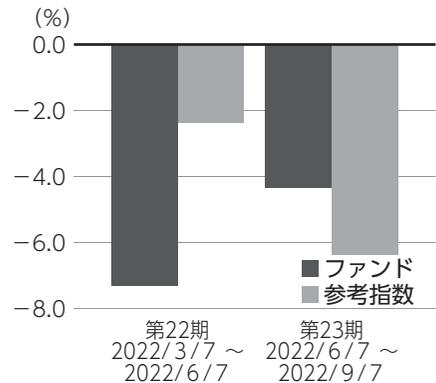
医薬品メーカーである「AMGEN INC」を新規買付、ヘルスケア関連のソフトウェア企業である「VEEVA SYSTEMS INC-CLASS A」を売却しました。

第22期～第23期：2022/3/8～2022/9/7

当投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。参考指数はダウ・ジョーンズ工業株価平均（円ヘッジ、円換算ベース）です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第22期 2022年3月8日～2022年6月7日	第23期 2022年6月8日～2022年9月7日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）	－（－％）
当期の収益	－	－
当期の収益以外	－	－
翌期繰越分配対象額	267	267

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

▶ 次世代米国代表株ファンド（為替ヘッジあり）

マザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。

▶ 次世代米国代表株マザーファンド

F R B が過度な利下げ織り込みを牽制する姿勢を示したことにより、早期の利下げ期待が剥落したことは、市況の上値を抑える要因となると思われます。インフレ動向に警戒を怠れない環境が続くため、今後の利上げのペースや、その先の利下げのタイミングなどについての不透明感が晴れない状況が続くと予想されます。加えて金利上昇やインフレによる景気後退リスクにも引き続き注意が必要です。2022年初来の市況の調整により株価水準からみた割安感が高まったことなども踏まえると、現行水準からの下値は限定的と予想するものの、当面は金融政策を左右するインフレ動向と、金融引き締めに伴う景気への影響を注視しつつ、方向感を探る展開が予想されます。

米国特有の大きなイノベーションが起きている分野に注目して、変化に機動的に対応し、恩恵を受け得る新しい次世

代企業に投資します。景気や金利の動向についての不透明感は未だ払拭されない状況ですが、マクロ動向の如何にかかわらず、イノベーションなどの中長期的な投資テーマに変化はないものと考えられます。現在は、米国の強みでもあるインターネット、医療システムの改革の重要性の高まりや、ミレニアル世代台頭に伴う小売分野の構造変化を踏まえた新しい企業の成長に注目しています。米国において医療費の抑制を含むシステムの改革が特にバイデン政権になってから注目が高まっており、遠隔医療や医療管理ソフトウェアなど、今後の成長が期待されます。同時に、伝統的な老舗企業でありながら、絶え間ない自己革新により環境変化に対応し続けている優良企業にも目を配っています。今後の金融政策や景気動向が懸念される状況にありますが、投資対象銘柄の中長期的な成長余地は依然として大きいと判断します。

2022年3月8日～2022年9月7日

1万口当たりの費用明細

項目	第22期～第23期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	70	0.804	(a) 信託報酬 = 作成期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (作成期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(34)	(0.388)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(34)	(0.388)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.028)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.043	(b) 売買委託手数料 = 作成期中の売買委託手数料 ÷ 作成期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
（株式）	(4)	(0.043)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税 = 作成期中の有価証券取引税 ÷ 作成期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	1	0.007	(d) その他費用 = 作成期中のその他費用 ÷ 作成期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.005)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（監査費用）	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	75	0.854	

作成期中の平均基準価額は、8,665円です。

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

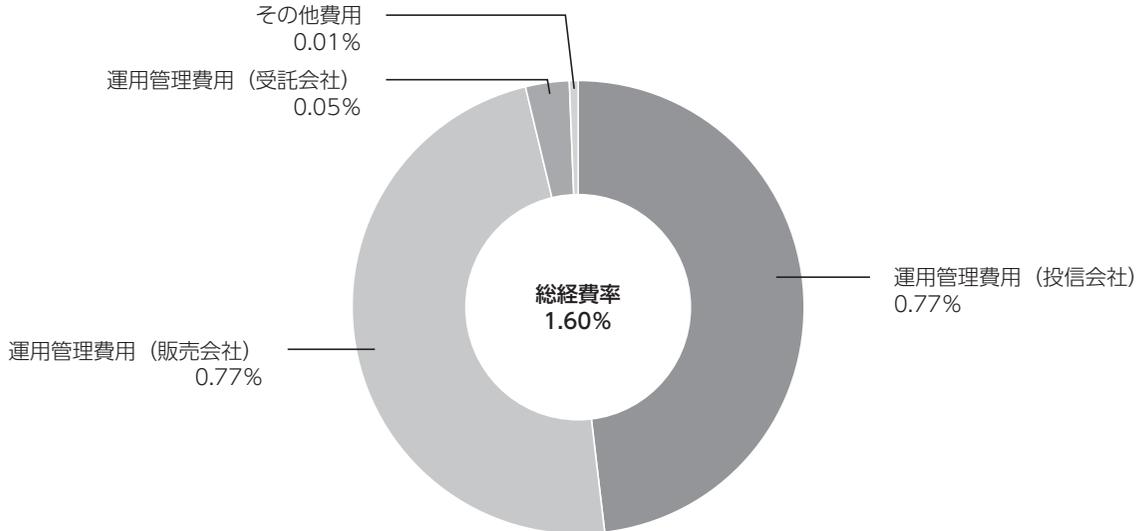
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.60%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年3月8日～2022年9月7日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第22期～第23期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
次世代米国代表株マザーファンド	千口 67,212	千円 227,260	千口 178,323	千円 616,530

○株式売買比率

(2022年3月8日～2022年9月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	第22期～第23期	
	次世代米国代表株マザーファンド	
(a) 当作成期中の株式売買金額	35,085,601千円	
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	63,030,684千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.55	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年3月8日～2022年9月7日)

利害関係人との取引状況

<次世代米国代表株ファンド（為替ヘッジあり）>

区 分	第22期～第23期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替先物取引	百万円 11,804	百万円 3,128	% 26.5	百万円 11,194	百万円 6,071	% 54.2

＜次世代米国代表株マザーファンド＞

区 分	第22期～第23期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 4,262	百万円 1,367	% 32.1	百万円 7,077	百万円 5,236	% 74.0

平均保有割合 2.6%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、モルガン・スタンレーMUF G証券です。

○組入資産の明細

(2022年9月7日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第21期末		第23期末	
	口 数		口 数	評 価 額
次世代米国代表株マザーファンド	千口 565,923		千口 454,812	千円 1,622,679

○投資信託財産の構成

(2022年9月7日現在)

項 目	第23期末	
	評 価 額	比 率
次世代米国代表株マザーファンド	千円 1,622,679	% 94.1
コール・ローン等、その他	101,399	5.9
投資信託財産総額	1,724,078	100.0

(注) 次世代米国代表株マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産(65,622,350千円)の投資信託財産総額(67,442,143千円)に対する比率は97.3%です。

(注) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1アメリカドル=143.12円			
-----------------	--	--	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第22期末	第23期末
	2022年6月7日現在	2022年9月7日現在
	円	円
(A) 資産	3,309,416,674	3,183,679,655
コール・ローン等	105,489,962	101,399,050
次世代米国代表株マザーファンド(評価額)	1,688,285,693	1,622,679,156
未収入金	1,515,641,019	1,459,601,449
(B) 負債	1,636,761,831	1,587,195,601
未払金	1,618,532,903	1,580,683,070
未払解約金	11,125,259	8,258
未払信託報酬	7,087,421	6,489,393
未払利息	149	144
その他未払費用	16,099	14,736
(C) 純資産総額(A-B)	1,672,654,843	1,596,484,054
元本	1,947,548,596	1,943,383,294
次期繰越損益金	△ 274,893,753	△ 346,899,240
(D) 受益権総口数	1,947,548,596口	1,943,383,294口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,589円	8,215円

○損益の状況

項 目	第22期	第23期
	2022年3月8日～ 2022年6月7日	2022年6月8日～ 2022年9月7日
	円	円
(A) 配当等収益	△ 2,510	△ 3,060
受取利息	6	26
支払利息	△ 2,516	△ 3,086
(B) 有価証券売買損益	△122,309,357	△ 63,596,362
売買益	139,393,827	271,259,252
売買損	△261,703,184	△334,855,614
(C) 信託報酬等	△ 7,103,520	△ 6,504,129
(D) 当期損益金(A+B+C)	△129,415,387	△ 70,103,551
(E) 前期繰越損益金	△116,509,670	△236,227,277
(F) 追加信託差損益金	△ 28,968,696	△ 40,568,412
(配当等相当額)	(34,692,429)	(35,329,525)
(売買損益相当額)	(△ 63,661,125)	(△ 75,897,937)
(G) 計(D+E+F)	△274,893,753	△346,899,240
(H) 収益分配金	0	0
次期繰越損益金(G+H)	△274,893,753	△346,899,240
追加信託差損益金	△ 28,968,696	△ 40,568,412
(配当等相当額)	(34,758,610)	(35,379,027)
(売買損益相当額)	(△ 63,727,306)	(△ 75,947,439)
分配準備積立金	17,303,002	16,620,682
繰越損益金	△263,228,059	△322,951,510

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項>

- ① 作成期首（前作成期末）元本額 1,964,969,693円
 作成期中追加設定元本額 170,247,097円
 作成期中一部解約元本額 191,833,496円
 また、1口当たり純資産額は、作成期末0.8215円です。
- ② 純資産総額が元本額を下回っており、その差額は346,899,240円です。
- ③ 分配金の計算過程

項 目	2022年3月8日～ 2022年6月7日	2022年6月8日～ 2022年9月7日
費用控除後の配当等収益額	－円	－円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円	－円
収益調整金額	34,758,610円	35,379,027円
分配準備積立金額	17,303,002円	16,620,682円
当ファンドの分配対象収益額	52,061,612円	51,999,709円
1万口当たり収益分配対象額	267円	267円
1万口当たり分配金額	－円	－円
収益分配金金額	－円	－円

* 三菱UFJ国際投信では本資料のほか、当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

次世代米国代表株マザーファンド

《第19期》決算日2022年9月7日

〔計算期間：2022年3月8日～2022年9月7日〕

「次世代米国代表株マザーファンド」は、9月7日に第19期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第19期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として米国において取引されている次世代の米国経済の主役となり得ると委託会社が判断した企業の株式に投資を行い、信託財産の成長をめざします。株式への投資にあたっては、今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれる投資銘柄を厳選し、30銘柄程度に投資を行います。株式の組入比率は原則として高位を保ちます。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主 要 運 用 対 象	米国の株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		(参 考 指 数) ダウ・ジョーンズ工業株価平均 (円換算ベース)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落 率	中 率	期 騰 落 率	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
15期(2020年9月7日)	23,438	17.8	18,997	13.4	99.1	—	37,679
16期(2021年3月8日)	28,105	19.9	21,669	14.1	97.6	—	41,554
17期(2021年9月7日)	32,644	16.2	24,651	13.8	95.1	—	50,220
18期(2022年3月7日)	31,926	△ 2.2	24,546	△ 0.4	98.1	—	57,849
19期(2022年9月7日)	35,678	11.8	28,299	15.3	97.9	—	62,163

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) ダウ・ジョーンズ工業株価平均(ダウ工業株30種)とは、ダウ・ジョーンズが米国を代表する30銘柄を選出し指数化したものです。日本では、「ダウ平均」、「NY(ニューヨーク)ダウ」、「ダウ工業株30種」などと呼ばれています。当ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、ダウ・ジョーンズは、その運用成果および当ファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。ダウ・ジョーンズ工業株価平均(円換算ベース)は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均をもとに、委託会社が計算したものです。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数) ダウ・ジョーンズ工業株価平均 (円換算ベース)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
		騰 落 率		騰 落 率		
(期 首) 2022年 3 月 7 日	円 31,926	% —		% —	% 98.1	% —
3 月 末	36,479	14.3	27,373	11.5	97.5	—
4 月 末	34,648	8.5	27,244	11.0	97.4	—
5 月 末	33,246	4.1	27,034	10.1	96.6	—
6 月 末	32,560	2.0	26,925	9.7	96.9	—
7 月 末	34,470	8.0	27,799	13.3	97.0	—
8 月 末	35,155	10.1	27,979	14.0	96.8	—
(期 末) 2022年 9 月 7 日	35,678	11.8	28,299	15.3	97.9	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

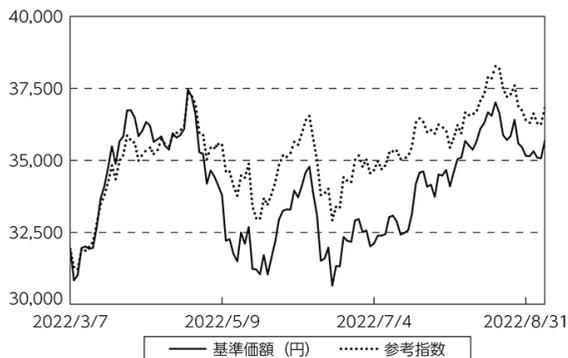
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ11.8%の上昇となりました。

基準価額等の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

- ・「TJX COMPANIES INC」や「UNITEDHEALTH GROUP INC」などの組入銘柄の値上がりに加えて、米ドルが対円で上昇したことが基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

- ・「INTUITIVE SURGICAL INC」などの組入銘柄の値下がりが基準価額の下落要因となりました。

●投資環境について

◎米国株式市況

- ・米国株式市況は下落しました。
- ・2022年5月米消費者物価指数(CPI)が予想以上に上昇したことなどを受け、政策金利の上げ幅が拡大され、急速な金融引き締めが景気後退を引き起こすのではないかと懸念などから下落しました。その後行き過ぎた景気悲観論が修正されたことなどを受けて上昇しましたが、米連邦準備制度理事会(FRB)高官の利上げ継続を示すタカ派発言を受けて、期末にかけて下落しました。

◎為替市況

- ・期首に比べ、米ドルは対円で上昇しました。FRBによる利上げの進展に伴う長期金利の上昇などから米ドル高が進みました。
- 当該投資信託のポートフォリオについて
 - ・米国の株式を主要投資対象とし、値上がり益の獲得をめざして運用を行いました。銘柄選定にあたっては、今後の経済環境、社会構造に関する見通しを基に、変化に対応し成長が見込まれる投資銘柄を厳選し、約30銘柄に投資を行ってまいりました。
 - ・主として米国の強みでもあるインターネット、医療システムの改革の重要性の高まりや、ミレニアル世代台頭に伴う小売分野の構造変化を踏まえた新しい企業の成長に注目しました。同時に、伝統的な老舗企業でありながら、絶え間ない自己革新により環境変化に対応する企業にも目を配りました。
 - ・当期においては、2022年初来の大幅調整から、下値は限定的となると考えました。一方で、インフレ懸念とそれに伴うFRBによる金融政策正常化の前倒しや、ウクライナ情勢の緊迫化などのリスク要因も多く、方向感を探る展開とも想定しました。
 - ・このような環境下、コロナ後も成長が持続するかどうかを踏まえながら、中長期的に業績拡大余地の大きい優良成長株に投資を行いました。適宜銘柄の見直しを行った結果、期首と期末では、2銘柄が入れ替わりました。
 - ・また、企業ごとの業績動向を踏まえつつ、株価の動きに対応した個別銘柄の組入比率調整を適宜行いました。
 - ・中央演算処理装置（CPU）市場において、市場シェアを獲得すると見込まれる半導体関連企業である「ADVANCED MICRO DEVICES」を新規買付、シェアを失うと見込まれる企業である「INTEL CORP」を売却しました。また、決算の動向などを踏まえ、バイオ医薬品メーカーである「AMGEN INC」を新規買付、ヘルスケア関連のソ

フトウェア企業である「VEEVA SYSTEMS INC-CLASS A」を売却しました。

○今後の運用方針

- ・FRBが過度な利下げ織り込みを牽制する姿勢を示したことにより、早期の利下げ期待が剥落したことは、市況の上値を抑える要因となると思われます。インフレ動向に警戒を怠れない環境が続くため、今後の利上げのペースや、その先の利下げのタイミングなどについての不透明感が晴れない状況が続くと予想されます。加えて金利上昇やインフレによる景気後退リスクにも引き続き注意が必要です。2022年初来の市況の調整により株価水準からみた割安感が高まったことなども踏まえると、現行水準からの下値は限定的と予想するものの、当面は金融政策を左右するインフレ動向と、金融引き締めに伴う景気への影響を注視しつつ、方向感を探る展開が予想されます。
- ・米国特有の大きなイノベーションが起こっている分野に注目して、変化に機動的に対応し、恩恵を受け得る新しい次世代企業に投資します。景気や金利の動向についての不透明感は未だ払拭されない状況ですが、マクロ動向の如何にかかわらず、イノベーションなどの中長期的な投資テーマに変化はないものと考えられます。現在は、米国の強みでもあるインターネット、医療システムの改革の重要性の高まりや、ミレニアル世代台頭に伴う小売分野の構造変化を踏まえた新しい企業の成長に注目しています。米国において医療費の抑制を含むシステムの改革が特にバイデン政権になってから注目が高まっており、遠隔医療や医療管理ソフトウェアなど、今後の成長が期待されます。同時に、伝統的な老舗企業でありながら、絶え間ない自己革新により環境変化に対応し続けている優良企業にも目を配っています。今後の金融政策や景気動向が懸念される状況にありますが、投資対象銘柄の中長期的な成長余地は依然として大きいと判断します。

○1万口当たりの費用明細

(2022年3月8日～2022年9月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 15 (15)	% 0.043 (0.043)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	2 (2) (0)	0.005 (0.005) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	17	0.048	
期中の平均基準価額は、34,034円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年3月8日～2022年9月7日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	アメリカ	百株 8,554 (3,003)	千アメリカドル 125,711 (-)	百株 11,099	千アメリカドル 141,881

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2022年3月8日～2022年9月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	35,126,600千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	63,030,684千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.55

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2022年3月8日～2022年9月7日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	
為替直物取引	百万円 4,262	百万円 1,367	% 32.1	百万円 7,077	百万円 5,236	% 74.0

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2022年9月7日現在)

外国株式

銘柄	株数	期 末			業 種 等	
		株数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円		
AMERICAN EXPRESS CO	1,758	2,088	31,035	4,441,744	各種金融	
ADVANCED MICRO DEVICES	—	584	4,597	657,958	半導体・半導体製造装置	
BOEING CO/THE	650	528	8,050	1,152,203	資本財	
CATERPILLAR INC	1,811	1,449	26,177	3,746,542	資本財	
COCA-COLA CO/THE	2,147	2,254	13,791	1,973,865	食品・飲料・タバコ	
CHEVRON CORP	848	910	14,301	2,046,835	エネルギー	
WALT DISNEY CO/THE	957	836	9,203	1,317,208	メディア・娯楽	
ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A	220	175	4,307	616,507	家庭用品・パーソナル用品	
S&P GLOBAL INC	113	154	5,494	786,382	各種金融	
BANK OF AMERICA CORP	8,377	6,830	22,581	3,231,883	銀行	
ROCKWELL AUTOMATION INC	811	746	17,774	2,543,842	資本財	
UNITEDHEALTH GROUP INC	974	736	38,145	5,459,348	ヘルスケア機器・サービス	
VULCAN MATERIALS CO	287	331	5,441	778,854	素材	
WALMART INC	1,029	534	7,066	1,011,422	食品・生活必需品小売り	
TJX COMPANIES INC	3,229	3,195	20,093	2,875,760	小売	
CADENCE DESIGN SYS INC	675	603	10,119	1,448,309	ソフトウェア・サービス	
INTEL CORP	938	—	—	—	半導体・半導体製造装置	
COSTCO WHOLESALE CORP	111	187	9,721	1,391,279	食品・生活必需品小売り	
APPLIED MATERIALS INC	549	457	4,126	590,549	半導体・半導体製造装置	
AMGEN INC	—	924	22,381	3,203,187	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
MICROSOFT CORP	1,193	957	24,254	3,471,233	ソフトウェア・サービス	
INTUITIVE SURGICAL INC	777	726	14,686	2,102,000	ヘルスケア機器・サービス	
AMAZON.COM INC	102	2,056	25,928	3,710,846	小売	
COSTAR GROUP INC	741	923	7,033	1,006,600	商業・専門サービス	
VISA INC-CLASS A SHARES	1,009	898	17,837	2,552,956	ソフトウェア・サービス	
DEXCOM INC	223	1,013	8,309	1,189,275	ヘルスケア機器・サービス	
SERVICENOW INC	307	408	17,563	2,513,641	ソフトウェア・サービス	
VEEVA SYSTEMS INC-CLASS A	653	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス	
BROADCOM INC	215	185	9,216	1,319,094	半導体・半導体製造装置	
TRADEWEB MARKETS INC-CLASS A	884	1,314	8,805	1,260,300	各種金融	
PINTEREST INC- CLASS A	1,966	2,008	4,438	635,278	メディア・娯楽	
ATRBNB INC-CLASS A	1,113	1,116	12,688	1,816,038	消費者サービス	
合 計	株数・金額	34,671	35,129	425,174	60,850,953	
	銘柄数<比率>	30	30	—	<97.9%>	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2022年9月7日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 60,850,953	% 90.2
コール・ローン等、その他	6,591,190	9.8
投資信託財産総額	67,442,143	100.0

(注) 期末における外貨建純資産 (65,622,350千円) の投資信託財産総額 (67,442,143千円) に対する比率は97.3%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=143.12円		
------------------	--	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年9月7日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	70,879,493,302 円
コール・ローン等	1,847,491,817
株式(評価額)	60,850,953,651
未収入金	8,091,187,027
未収配当金	89,860,807
(B) 負債	8,716,155,946
未払金	3,506,153,350
未払解約金	5,210,000,000
未払利息	2,596
(C) 純資産総額(A-B)	62,163,337,356
元本	17,423,342,949
次期繰越損益金	44,739,994,407
(D) 受益権総口数	17,423,342,949口
1万口当たり基準価額(C/D)	35,678円

<注記事項>

- ①期首元本額 18,120,117,780円
 期中追加設定元本額 2,365,848,153円
 期中一部解約元本額 3,062,622,984円
 また、1口当たり純資産額は、期末3,5678円です。

②期末における元本の内訳 (当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

次世代米国代表株ファンド	14,168,025,560円
次世代米国代表株ファンド (FOFs用) (適格機関投資家限定)	2,663,252,788円
次世代米国代表株ファンド (為替ヘッジあり)	454,812,253円
外国株式アクティブファンドセレクション (ラップ専用)	137,252,348円
合計	17,423,342,949円

○損益の状況 (2022年3月8日~2022年9月7日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	393,921,636 円
受取配当金	391,741,768
受取利息	2,275,320
支払利息	△ 95,452
(B) 有価証券売買損益	6,802,203,903
売買益	15,506,974,032
売買損	△ 8,704,770,129
(C) 保管費用等	△ 3,466,469
(D) 当期損益金(A+B+C)	7,192,659,070
(E) 前期繰越損益金	39,729,810,506
(F) 追加信託差損益金	5,432,441,847
(G) 解約差損益金	△ 7,614,917,016
(H) 計(D+E+F+G)	44,739,994,407
次期繰越損益金(H)	44,739,994,407

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。